

2024年5月 第1号

みらいく木育レター

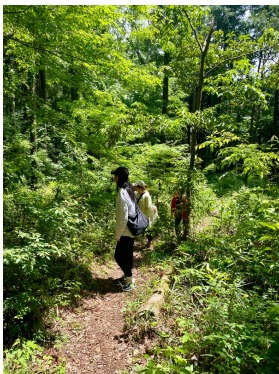
みらいくの木育テーマ

「自然と遊びながら 自然から学び 自然と共に心と体が育つ」



つちざわの森

2024.5.14 下見レポート



また違う季節に行ってみたい

参加した先生の感想（原文）

実際に行ってみたことで、子ども達が興味を持ちそうなことや、引き出すための準備物や環境作りのイメージがわかりました。

園に帰ってから少しだけ子ども達に森の様子を話し写真を見せるねと伝えたところ、好きな写真を選んでハサミで切りたいと言ってくださいました（普段好きな物がのっているチラシなどを切り、アルバムのような物を作っている年中児です）。

オリジナルの図鑑を作り、それを持って森に行くのも楽しそうです。

日々の散歩も、少しゆっくり歩くだけでたくさんの発見があるんだろうなと改めて感じました。自然が少ない環境でも、たくさんの発見や自然に親しむことができるよう工夫していきたいと思います。

「わー！」 「これみてー！」 が飛び交う

赤い実をつけた木苺が目を引く。日本に自生している木苺は50種類以上もあるらしい。私が子どもの頃に近所で採って食べていたのと同じく違う気がしたのはそのせいかもしれない。ちなみに、ヘビイチゴはなんだか食べてはいけないイメージがあったが、実際は無毒で食べることは可能らしい。



コナラの木の下に、木の子どもたちが葉を伸ばしている。よく見るとこの狭いエリアにも5～6種類、みんな違う。「あなたのお母さんはどちら？」と聞いてみたくなる。こうしてしゃがんでみると地面の生き物たちも見えてくる。「虫メガネ持ってくればよかった！」と先生たちの声が聞こえた



樹木にきのこが生えている。黒、茶色のグラデーション、赤など様々な色や、形、大きさ、手触りがある。散策が進んでくるとみんなの感覚も研ぎ澄まされて？目も慣れてきて？次々に新しいものを発見する。初めは見えていただけなのに一つずつ触ったり感想を喋ったりするようになるから不思議だ



散策の終盤、竹の切り口になにやら気持ち悪いもの（個人の感想）が溢れていた。すっかり好奇心全開になっている先生たちは、いつの間にか棒を持って白い物体をつついたり、かき混ぜて感触を確かめたり、棒についた白い物の匂いを嗅いでいた。夢中になるってこういうことなんだな。



約1時半の散策中、先生たちの口から何度も聞こえた「わー！」の声。
「子どもたちは棒を拾うだけでも楽しいよね」
「大人がこんなにわー！って思うんだから子どもはもっとだよ」
「葉っぱの緑だけでもたくさん種類があって色探しだけでも楽しいね」
「若葉は柔らかいんだって分かって色々触ってみたくなるね」
「木の板でバランスを取って遊ぶだけでも楽しい！」
「森を見ている内に段々、虫をいっぱい発見できるようになった」
「自分で歩いてみると、何があったらもっと楽しめるか考えられた」
「人工的な音から離れて、自然の音をたくさん感じられた」
「これなんだろう？面白い！が溢れる」
「なんだろう？と思ったのを調べるのも楽しいね」
「面白いと思ったものを森で描いて帰るのも良いね」
「色探いや形探しのとっかかりを作っておけるといいかも」

気が付けば「ちょっとこれ見て！！」の連続で自然と私たちの会話も増えていき、段々歩みも遅くなったけど、これが散歩の楽しみなんだな、自然の中で過ごすことの楽しみなんだな、としみじみ語り合った。